

宿縁

九月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

浄土への人生とは

どういふことか



『この私が仏(目覚める)となる』

これが仏教です。お経はその仏さま(本当のこと)真実に目覚めた方からの私に向かつてのおことばです。

「真実」の反対語は何でしょう？

「虚偽」です。「虚」は、むなしいこと、うそです。「偽」は、いつわり。にせです。

ということばは、仏の教えを聞かない人、出遇わない人の人生はむなしく、いつわりの人生といえます。

さて、あなたは真実の人生を歩もうとする

のか虚偽の人生を歩むのか、その選択はあなた一人にかかっています。

仏さまのことば(涅槃経)にこうあります。

「闇(やみ)は世間(人の世)であり、明(あき)は出世間(仏道)である。また、闇(あん)は煩惱であり明(みょう)は智慧である」

ところで、横田慎太郎選手という人をご存じでしょうか？今年の七月十八日に二十八歳の若さで亡くなった元プロ野球阪神タイガースの選手です。

今や大谷翔平の名を知らない人はいないでしょう。アメリカ大リーグで大活躍する姿は毎日テレビで中継されています。まさに世界中のファンを魅了しています。

それにひきくらべれば横田選手は名もなき選手だったと言えるかもしれません。しかし彼の二十八年の人生は多くの人びとに勇気と希望と感動をもたらせたことを映像で知りました。

幼い時から野球が大好きでボールとバットを離さなかった彼は、闊達な野球少年として明るい性格の母や父のもとで鹿児島に生まれ育ちました。やがて野球の名門鹿児島実業高校を卒業すると阪神タイガースのスカウトの目に留まり、2013年ドラフト二位で入団しました。練習は常に率先し、走攻守にわたってはつらつとしたプレーは監督や他の選手の目に止まる存在でした。2016年一軍デビューを果たしました。

しかし翌年の春のキャンプ中に捕ろうとするボールが二重に見える、また頭が激しい痛みを襲われる事態となりました。監督やコーチに相談したところ、早く病院で診てもらった方がいいということになりました。診断の結果は脳腫瘍、骨髄にも影響を及ぼすほどの重病、医師からは「君は一回野球のことは忘れてください！」と言われ、どん底に突き落とされました。

幼い時からあれほど野球が好きで好きで、野球以外のことは考えもしなかった彼のショックはいかばかりであったか思いはかることができません。

やがて彼は十八時間に及ぶ大手術を二度も越え、ただひたすら野球界に復帰することを願ってボールやバットを握りリハビリに励んだのです。育成選手になってもその執念は周りの人達を感嘆させました。

しかし、無念にも復帰の道が断たれることになって、2019年引退試合が行われることになりました。相手チームはソフトバンクです。スタンドには彼を慕うチームメイトや多くのファン、勿論彼を明るく支え続けたお母さん、病気で丸坊主になった自分に合わせて丸坊主姿になったお父さんの姿もありました。

八回裏、2アウト二塁の場面でベンチに控えていた彼に選手交代の監督からの合図が出ました。呼ばれた彼は嬉々としてセンターの守備に就きました。

スタンドの母は「どうか彼のところにボールが飛んでいかないうちに！」とひたすら願いました。それはボールがよく見えない息子では他の選手とぶつかって相手に怪我をさせ

てはならないとの思いからです。

ところがです。相手チームの打った打球が彼のところに飛んできました。その時です。ヒットした打球をつかんだ彼はホームに滑り込む走者を待ち構える捕手のミットにノーバウンドで達し、見事にタッチアウトとなったのです。

「奇跡のバックホーム」としてドラマにもなりました。

彼は挨拶で、「両親をはじめ多くの人びとに支えられ助けてもらった幸せの野球人生を涙しながら語りました。

「あのバックホームは自分でも不思議でならない、何かの力が加わったとしか言いようがありません」と申しています。

彼は同じ病いに苦しむ人たちの少しでも力のなればと、請われる場所に向き「諦めない心」と題し講演をしました。

仏教で「諦観(たいかん)」という言葉があります。「明らかに深く事象を観ずる」。あるいは「止観(しかん)」という言い方もあります。「もろもろの思いを止めて心を一つの方向に集中する」姿勢により、新たな方向が見えてくることです。

今少しこれをひもとけば、自らの人生に遭遇した出来事は素直に受け入れたときに、必ず新しい方向が見いだされるといふことだと思えます。過去を引きずることなく、生きるとは絶えずこの身が新陳代謝されているように新たな世界が生み出されていることに目覚めることでしょう。

仏教の教えは、最終地点を教えるのではなく、無限のいのちを得る教えなのです。

【寺灯雑記】

○亡きかたを偲び盂蘭盆会が勤まる
8/11

今年の盂蘭盆会法要並びに全戦没者追悼法要は、「重誓偈」「仏説阿弥陀經」の読經、讚仏歌の唱和に引き続いて、王子布教所の大江和正師にご法話いただきました。ご自身の家族や布教所設立のご苦労を交えながら、浄土真宗のお盆のお心を実直にお話してくださいました。

お盆期間中は台風の進路を気にしたり、暑さ対策をしつつ、多くの方がお墓参りに来られました。普段遠くに住んでいるご家族を紹介いただいたり、お孫さんの手を引きながらお参りする姿など、尊いご縁にあわせていただきました。



【ブツダの教え 「お経」のことば】

「四つの心理」

この人間世界は苦しみに満ちている。生も苦しみであり、老いも病も死もみな苦しみである。

怨みあるものと会わなければならないことも、愛するものと別れなければならないことも、また求めて得られないことも苦しみである。まことに、執着（しゅうじやく）を離れられない人生はすべて苦しみである。

これを苦しみの真理「苦諦（くたい）」という。

この人生の苦しみが、どうして起こるかという、それは人間の心につきまとう煩惱から起こる。その煩惱をつきつめていけば、生まれつきそなわっている激しい欲望に根ざしている。

これを苦しみの原因「集諦（じつたい）」という。

この煩惱の根本を残りなく滅ぼし尽くし、すべての執着を離れば人間の苦しみもなくなる。

これを苦しみを滅ぼす真理「滅諦（めつたい）」という。

この苦しみを滅ぼし尽くした境地に入るには、八つの正しい道（八正道）を修めなければならぬ。

これらの八つは欲望を滅ぼすための正しい道の真理「道諦（どうたい）」といわれる。これらの真理を人はいしつかりと身につけなければならない。

『パーリ律蔵大品』

『パーリ相応部 転法輪經』

【法要・法座のご案内】

○婦人会法座

※九月二日（土） 一時
・御文章に学ぶ
（信心獲得章―五帖第五通） 前住職

○子育てサロン（パンダっ子）

※九月十一日（月） 十一時～十四時
保護者同士の交流と子どもたちがふれあう楽しい遊びの場です。どなたでもご自由にご参加できます。昼食が用意されています。

○壮年会法座

※九月十六日（土） 朝八時
・御文章を味わう
（領解文） 住職

日時が変更となりました。今月は新鮮な空気の朝、朝の集いとなりましたのでぜひお出かけください。

☆秋の彼岸会法要修行

（法縁廟法要併修）

※九月二十三日（土・祝日）

・法縁廟入廟者法要 十二時十五分
（第二墓地廟前にて）

・彼岸会法要（本堂） 一時
仏説阿弥陀經

・衆会（讚仏歌）
・法話 「死者の立憲主義」 二時

講師 中島岳志先生

（東京工業大学リベラルアーツ研究 教育院副院長）

中島先生は昨年秋の第三十二回文化講演

会の講師として「利他と他力」の講題でお話しいただき、大好評でした。若い方々にお声がけして是非ご参詣ご聴聞ください。

○浄土文類聚鈔を学ぶ（親鸞セミナー）

※九月三十日（土） 二時 前住職

◎帰敬式受式希望者へお知らせ

築地本願寺で行われる今秋の報恩講中の十一月十五日もしくは十六日の帰敬式（おかみそり）をご希望される方は、内願法名懇志二万五千円と印鑑をお持ちいただき申請いたしますので今月九日までにご当寺へお申込みください。

◎第33回中原寺文化講演会のお知らせ

開催日時 十月二十一日（土）

午後一時半開演

- ・講師 若松英輔氏（批評家・随筆家）
- ・講題 「信じて」と知ること」
- ・場所 山崎製パン企業年金会館
- ・入場無料

NHKEテレ100分de名著などに出演し、多数の著作で知られる新進気鋭の先生です。

ぜひ多くの方々に声をかけてご来場ください。

【今月の掲示板のことば】

生きるヒント
明日はないと思え